

もの知りタイムズ

「社会的孤立」が広げる格差 子どもを貧困から救うために



3keysのパンフレットを手に「子どもは等しく守られるべきです」と語る森山誉恵さん

子どもの貧困 1985年に10.9%だった日本の子どもの貧困率は2012年に16.3%と過去最悪に。ひとり親世帯は特に深刻で54.6%に上る。子どもの貧困状態は学力、健康、自己肯定感などと相関関係があるとされる。



児童養護施設 親の死亡や経済的な理由、虐待などで家庭で暮らすのが困難な子どもを育てる施設。全国に約600カ所ある。原則として18歳未満を対象とし、2013年の入所者数は約2万9000人。近年、虐待を受けた子が増えている。

養護施設の子らに学習支援 「3keys」代表 森山誉恵さん

親の代わりは地域、その前提が失われている

児童養護施設などで暮らす子どもたちを支援する「3keys」(東京)は、代表の森山誉恵さん(27)が2009年、慶応大在学中に設立した。活動から見えてきた子どもと社会の姿は？ 大人には何ができるのか。

「3keysは三つの鍵『きっかけ、きつき、きぼう』を意味します。学習ボランティアを募集・登録して、施設に橋渡しする活動が中心で、年間約20の施設の50〜60人の子どもたちが週1〜3回、学習指導を受けています」
格差の広がり、貧困の拡大は、

3keysは、学習指導を受けた子どもたちにアンケートをしている。

2013年度調査では、目標達成度について「十分達成できた」が23%、「達成できた」も53%に上った。チューター(学習ボランティア)には「とても満足」70%、「満足」18%。9割近くが良い関係を築いていた。

自由記入の感想を見ると「優しい人で、よく話を聞いてくれて、勉強も分かりやすかった」「世界史に興味を持てるような豆知識も教えてくれて楽しかった」「前回の授業で理解しにくかったところを調べてきてくれて分かりやすく教えてくれた」「自分でも力がついていくのを感じる事ができた」と効果を感じさせる言葉が並ぶ。大学に進学した子は「苦手な



学習指導はマンツーマンが多い。その子に合わせた指導ができる「千葉(ちば)県」の児童養護施設子どもの顔を画像加工しています

た児童養護施設での経験だ。担当した中学生の女の子から言われた言葉は「勉強ができないから学校に行っても無駄。高校に行ってもどうせやめる」。

彼女はどうしてこんなに悲観的なのか。

「教えてみると小1、小2の算数からつまづいていた。施設の職員は1人で何人もの子どもをかかえ日常の世話で手いっぱい。勉強を見てくれる人もいない。授業は彼女の事情にお構いなくどんどん進む。他に頼る人もいない」。それは悲観ではなく、子どもにとっては現実だと知った。

施設で育った子の自立の難しさも知った。四年制大学の進学率

でも、時間もお金も情報もない。貧困から抜け出せない」

貧困による格差を拡大する大きな要因として「社会的孤立」を指摘する。

「隣近所の付き合いがあっても、近所の子にご飯を食わせていた時代だったら、この活動は必要ないと思う。今は『あの子、変だな』と思っても干渉してはいけないという空気が。親がやらなければ地域が助けるという前提が失われている」

3keysの学習ボランティア、それを支えるスタッフは20〜40代が中心。「地域にいるおじさんやお姉さんの存在になれたら」

支援を必要とする子どもに比べ、実際に支援できている子どもの数はあまりに少ない。だが、森山さんは前を向く。

孤立しやすい子たちから、相談を受ける活動も始めた。「子どもたちを支援しながら、見えてきた課題を社会に発信していき、輪を広げていくしかありません」



学習ボランティアは3keysで研修を受け、施設と施設の子たちについて十分に知ってから実際の指導に当たる。＝東京都の自立援助ホーム

学習指導を受けた子「自信がついてきた」

った英語がここまで読めるようになる、自信にもつながりました！ 長い文章でも大体は理解できるので、大学でも大役立ってます！

3歳まで乳児院、その後、児童養護施設を経て、働きながら大学に入学し仕事と勉強を両立した女性は、3keysの活動をこう評価する。

「私は学習によって将来の可能性が広がることを社会に出たから思い知りました。例えば、自分の夢や就きたい職業、新たな世界、人間関係などが築けます。何より自分の自信にもつながるので、児童養護施設の子どもたちも学習を通して多くを学んでほしい。そのために、3keysのような団体の協力は不可欠だと思います」

記者ノート

「私たちが当たり前に受けてきたものを、施設にいる子たちは受けてきていない」。森山誉恵さんはそう感じている。学校から帰ったら愚痴を聞いてくれる家族がいた。野菜が嫌いだったら親が何とか食べられるように調理を工夫してくれた。抱っこしてもらった安心感…。そんな記憶にさえ残っていないようなことが、人間としての基礎的な部分を形づくっている。「その代わりを他人がするには、実はたくさん人の手と心が必要なんです」